



「フムフム」は
アイヌ語のあいづち

シサム、和人、和民族

同じ人々を指す言葉

人気漫画「ゴールデンカムイ」が映画化されて話題になりました。この作品にはアイヌのほか、北（サハリ）のニヴフやウイльта、ロシア人などいろいろな民族が登場します。そのなかに「シサム」と呼ばれる人々が出てきます。同じ人々を、ウイльта語では「シシャ」、沖縄の言葉では「やまとうんちゅ」といいます。みなさんにとってもなじみが深い民族ですが、分かりますか？

シサムや、やまとうんちゅのことを日本語では「和人」とか「和民族」と呼びます。和人も和民族も初めて聞く言葉でしょうか。どちらも日本語を話し、日本文化を共有しながら暮らしてきた人々を指します。

「それって日本人じゃないの？」と思うかもしれません。確かに、和人・和民族と日本人はかなり近い言葉です。ただ、日本では日本の国籍を持っている人を「日本人」と呼んでいました。

そうすると、アイヌやニヴフ、ウイльтаも、海外にルーツがあるほかの人、国籍を持っていればみな「日本人」となります。本州や四国、九州にずっと暮らしてきた人びとと同じ呼び方になってしまいます。

そこで、北海道の学校などでは、シサムにあたる人びとを和人と呼んできました。ただ、「和人と呼ばれるのはうれしくない。日本人でいい」と感じる人もいます。「民族」という言葉は、現代的でない、おくれた暮らしをしている人を呼ぶ時のものだ、という思いこみもあります。

和人は、江戸時代に道南の松前藩のなかで使われていた歴史のある言葉です。また、日本では戦前、自分たちを「大和民族」と呼んで、民族という言葉に盛んに使ってきました。とはいえ、和人も和民族もしっくりこない人は、シサムを使ってみるのも良いかもしれませんね。

(北原モコットウナシ)

